



沖縄の戦争の歴史と今を学ぶ(PFAS)①

JR東海労は、2月25日から27日、社会連帯機構の飯沼さんのご案内で沖縄平和研修を行いました。山田正彦元農相と共に、伊江島の歴史と米軍による有機フッ素化合物汚染について学んできました。

今号では、有機フッ素化合物汚染(PFAS)の対策を求めて立ち上がられた「宜野湾ちゅら水会」の闘いについて報告します。

発ガン性が指摘されている有機フッ素化合物(PFAS)が沖縄県の米軍基地周辺の水道水源から高濃度で検出されました。宜野湾市の女性を中心に汚染対策を求め「宜野湾ちゅら水会」が結成され、その後の闘いについて、代表の町田直美さん、事務局長の照屋正史さんなど4名の方からお話を伺う事ができました。町田さんは、「なぜ私たち市民が米軍によって汚染された水を飲まされるのか」との怒りを出発点に会を結成したと言われていました。

水質汚染の原因は、米軍基地で使用されている泡消化剤であり、その使用停止と水質汚染対策を県や市、そして政府要請として、環境省など6省庁と各政党に対し問題の解決を求めて要請が行われました。基地内への立ち入り調査や、血中濃度検査・疫学調査の実施、妊婦健康診査の項目に血中濃度調査を追加することなどを要請されています。

併せて、県公害審査会への公害調停を申請されていました。しかし、水質汚染の被害に関する紛争の申立てに該当するとしつつも、嘉手納基地が防衛施設であり、公害紛争処理法の適応対象外であるとし却下したのです。



高濃度のPFASが検出され飲用禁止の看板が設置されている湧水「森の川」＝宜野湾市真志喜の森川公園



報告会への来場を呼び掛ける町田直美さん(右)と照屋正史さん＝21日、琉球新報社